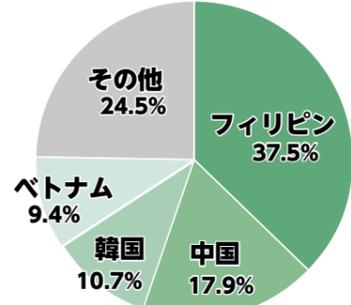


市では、外国語教育の充実と地域の国際化推進を図るため、国や（一財）自治体国際化協会（CLAIR）が行っている、JETプログラム（語学指導などを行う外国青年招致事業）を活用し、外国語指導助手（ALT）や国際交流員（CIR）を任用しています。

7月25日現在、通訳・翻訳や国際交流イベントの企画実施を行うCIRのヤニックさんと、小・中学校で語学指導を行うALT19人が市内で活躍しています。

市内には1,719人の外国人市民が暮らし、アジア地域の国籍の人が約90%を占めます。国別では、フィリピン国籍が全体の3分の1を超えています。

外国人市民は、今後も増えることが予想されます。



※上越市住民基本台帳を基に作成（令和4年3月31日現在）

現在、市内で暮らしている外国人市民

ALT、CIRなど
ヤニックさんも
この制度を通じて上越へ



左/サポーターが作った、カード立てになる折り鶴。他のお土産と共にホテルへ。右/訪問した学校から届いたお礼の寄せ書き。

ほしいですね。

例えば、20〜30歳代の若い皆さんが、「このまちなら将来の暮らしが描けるな」とか、「住み続けたいな」と思ってくれるよう、また、自分が「やってみたい」と思ったことにチャレンジできる環境が充実すると良いですね。今、高田地区を中心に若い人たちが新しいことにチャレンジしています。それがいろいろなエリアで、さまざまな分野に広がっていくと良いですね。

自分と違った価値観を持つ人や外国人、障害がある人など、いろいろな人と触れ合ったり交流することで、自身の視野も広がり、得られるものがたくさんあります。私はドイツの大学で手話も学び、聴覚が不自由な人とも交流を持ったことで、視野が広がり、いろいろなことに対応する力が身に付いたり、それまで考えもしなかった将来への道が開けるなど、人生がより面白くなったと思うんです。

例えば、市内にはアジアの国々出身の外国人の皆さんが大勢暮らしています。まずは、同じまちに住んでいる、身近な人たちの暮らしや文化に興味を持っていただけると思いいます。

そして、今回オリンピックやパラリンピックを通じてできたドイツとのつながりを、今後も大切にしていきたいと思っています。

第二のふるさと 大好きな上越の皆さんへ

ドイツ国外での暮らしは、私にとってここ上越での3年間が1番長いものとなりました。上越は私の第二のふるさとです。任期を終え、上越からは離れますが、また遊びに帰ってきたいと思っています。

上越での貴重な経験や皆さんの思い出は、私の宝物です。

またお会いしましょう!
Auf Wiedersehen!

令和4年7月8日、スポーツ推進課の皆さんと。この執務室での仕事もあわずが。

じょいん JOINの取り組み

上越国際交流協会（JOIN）では、上越市の国際交流活動の拠点である市国際交流センター（市民プラザ内）の運営や、外国人市民と地域社会とを橋渡しするさまざまな活動を行っています。

■問合せ…（公社）上越国際交流協会（☎025-527-3615）



ワールドキャンプ2022

市内の小中学生を対象に、留学生やALTの皆さんとの異文化交流キャンプを3年ぶりに開催します。今年は8月1日⑧・8日⑧に、大湯水と森公園で行います。※申し込みは締め切りました。



やさしい日本語講座

日本人を対象に、簡単な日本語で外国人とコミュニケーションを図るための講座を毎年開催しています。昨年度は、外国人市民が多く暮らす頸城区で行いました。

上越市内にはさまざまな人が暮らしています。ヤニックさんの「全ての皆さんが心豊かに生活できるように」という言葉は、「誰一人取り残さない」ことを誓う「SDGs」や、さまざまな人々が分け隔てなく暮らしていける「共生社会」、国や民族が異なる人々が互いに違いを認め合いながら共に生きていく「多文化共生」の考え方に通じるものです。

「全ての皆さんが心豊かに生活できる」まちへの第一歩として、まずは身近にいる人たちへ興味を持つことから始めてみませんか。

